

統計の眼

都市部で盛んな「国民参加の森林整備」近年、一般の市民や住民が参加した森づくり活動が各地で行われている。こうした中、農林業及びその資源に関する一〇年に一度の全国調査である「世界農林業センサス」では、「国民参加の森林整備」について、「植林」、「下刈りなど」、「間伐」の三種の作業を取り上げ、一九九九年の作業面積と参加人数を調査した。

その結果、表に示すように全国で一、八一八haの森林で約一一・六万人が森林の保全等を主目的とした整備活動に関わっていることが示された。この数字をどのように判断するのは、現段階では難しい。特に、今回の調査は「全国三、四〇〇市町村を対象に農水省の出張所職員による林業精通者を通じた面接による聞き取り」で行われており、正式な取り決めを行わず実施しているような住民レベルの小規模な活動まで正確に把握されているかどうかは疑わしい。つまり、「センサス」が示した「国民参加の森林整備」は、比較的規模の大きな活動を捉えたものと推測される。

こうした点を前提に詳しく見ると、作業種別では、植林が六三、四〇〇人と他の作業種より参加者数が多い。これは、他の作業種に比べて危険度が低く、技術を身につけていない一般の人でも気軽に参加できるためであろう。また、地帯

別では、「関東・東山」、「東海」、「近畿」、「中国」、「九州」等の大都市を抱える地帯での参加者が多いことがわかった。つまり、現時点では「国民参加の森林整備」が近年深刻化している山間地の間伐問題を直接解決する可能性は少ないといえるだろう。

林業の採算性が悪化し、従来型の担い手対策が空転する中で、「国民参加の森林整備」が森林の担い手として政策的にも注目されているものの、「国民参加の森林整備」が担える範囲と意義を再度見直す必要があると考えられる。

(栗栖 祐子)

*本報告は『林家経済の基礎的調査(一)』(『林政総研レポート』林政総合調査研究所 三二―三三頁を基に要約した)。

国民参加による森林整備(ボランティア活動)状況

	面積(のべ) (ha)	参加者数(のべ)(人)			
		合計	植林	下刈りなど	間伐
全国	1,818	116,143	63,400	40,558	12,185
北海道	81	9,282	8,524	712	46
東北	179	8,969	6,600	1,555	814
北陸	95	5,891	1,920	3,487	484
関東・東山*	570	24,920	8,202	14,247	2,471
東海	227	17,247	10,939	4,247	2,061
近畿	219	14,304	3,202	7,140	3,962
中国	106	10,192	6,322	3,148	722
四国	103	6,176	3,576	1,644	956
九州	209	18,278	13,656	3,953	669
沖縄	29	884	459	425	0

資料:農水省統計情報部編『2000年世界農林業センサス・林業地域調査報告書』
*東山=山梨県、長野県